

株式会社 岡本工作機械製作所 証券コード:6125

Okamoto
株式会社岡本工作機械製作所

決算説明会資料

2016年6月17日



○ 目次

	page
I. 当社の概要	3
II. 当社の特徴	13
III. 2016年3月期 決算概況	21
IV. 2017年3月期 業績予想	29
V. 中期経営計画	32

I

当社の概要



○ 世界唯一の総合砥粒加工機メーカー

» 会社概要

会社名 英文	株式会社 岡本工作機械製作所 Okamoto Machine Tool Works, Ltd.
創業	大正15年11月
設立	昭和10年6月
資本金	48億8051万円
代表者	代表取締役社長 石井 常路
本社所在地	〒379-0135 群馬県安中市郷原2993番地
事業内容	各種研削盤・半導体関連装置の製造・販売
従業員数	連結：1,812名 単体：359名 ※平成28年3月末現在
関連会社	岡本工機株式会社 技研株式会社 OKAMOTO CORPORATION(米国) OKAMOTO (SINGAPORE) PTE, LTD. (シンガポール) OKAMOTO (THAI) CO., LTD. (タイ) OKAMOTO MACHINE TOOL EUROPE GMBH(ドイツ)



○ 沿革

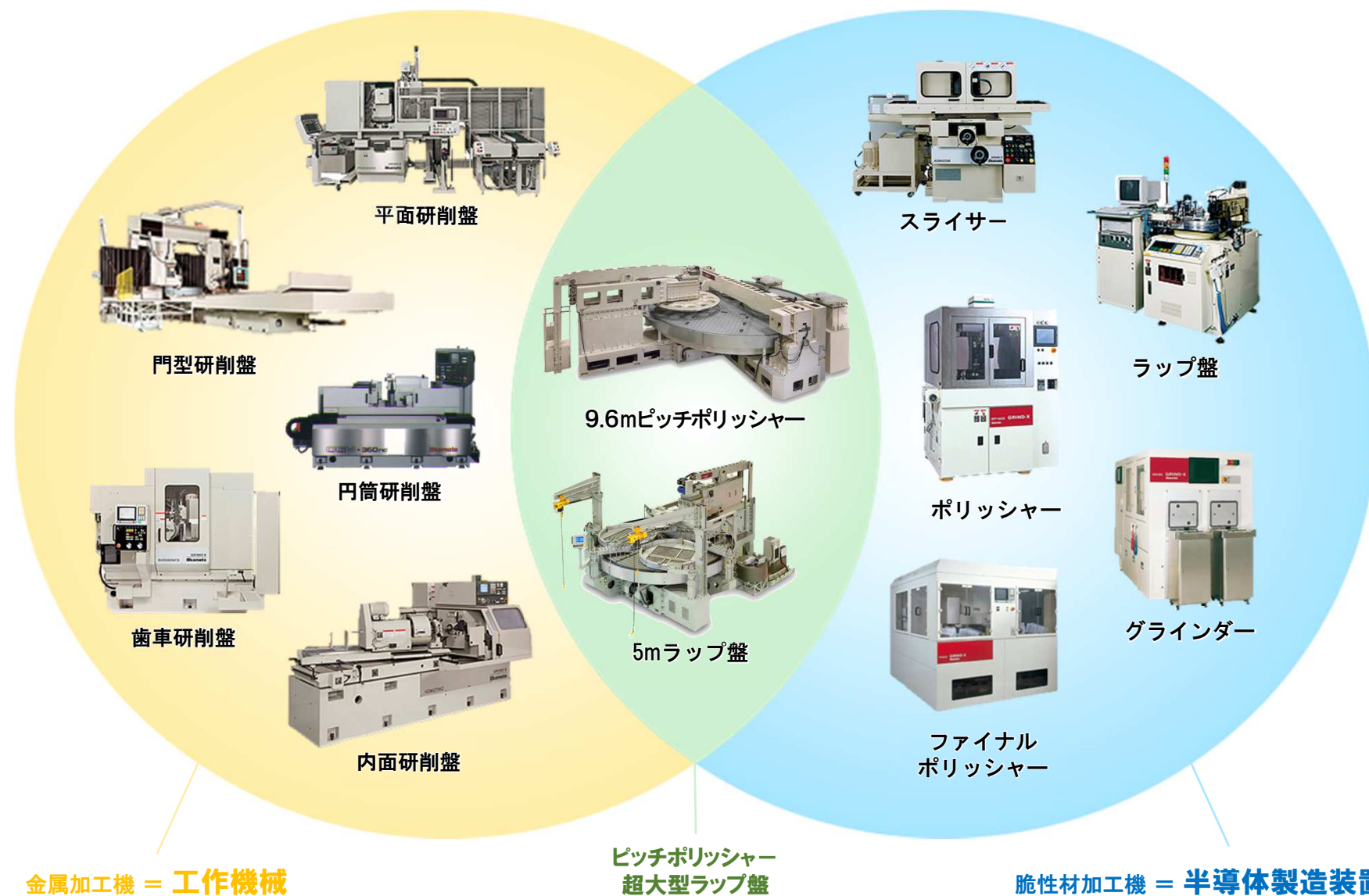
大正15年 (1926年)	岡本覚三郎が岡本専用工作機械製作所を創業
昭和5年 (1930年)	国産初の歯車研削盤 ASG-2型を完成
昭和10年 (1935年)	(株) 岡本工作機械製作所創立
昭和28年 (1953年)	国産初の平面研削盤PSG-6型完成 
昭和30年 (1955年)	国産初の外周刃スライシングマシン PSG-3GE型を完成
昭和38年 (1963年)	東京証券取引所市場第二部上場
昭和43年 (1968年)	世界初のCNC成形研削盤 NFG-5型を完成
昭和47年 (1972年)	米国に、オカモト・コーポレーション設立
昭和48年 (1973年)	シンガポール工場完成
昭和57年 (1982年)	群馬県安中市に安中工場完成
昭和61年 (1986年)	タイ工場完成
平成4年 (1992年)	ドイツに、オカモト・ヨーロッパ設立
平成8年 (1996年)	半導体事業本部を設立
平成9年 (1997年)	全自動立型高精度平面研削盤の開発で日本機械学会 技術賞受賞 全自動高精度高能率CMP装置の開発で砥粒加工学会 技術賞受賞
平成12年 (2000年)	高精度成形研削盤 UPZシリーズを完成
平成13年 (2001年)	スキヤニングポリシャ―GNX300Pを完成
平成14年 (2002年)	中国・上海に駐在員事務所開設
平成16年 (2004年)	超精密平面研削盤 UPGシリーズ発売開始
平成24年 (2012年)	本社を群馬県安中市(安中工場)に移転



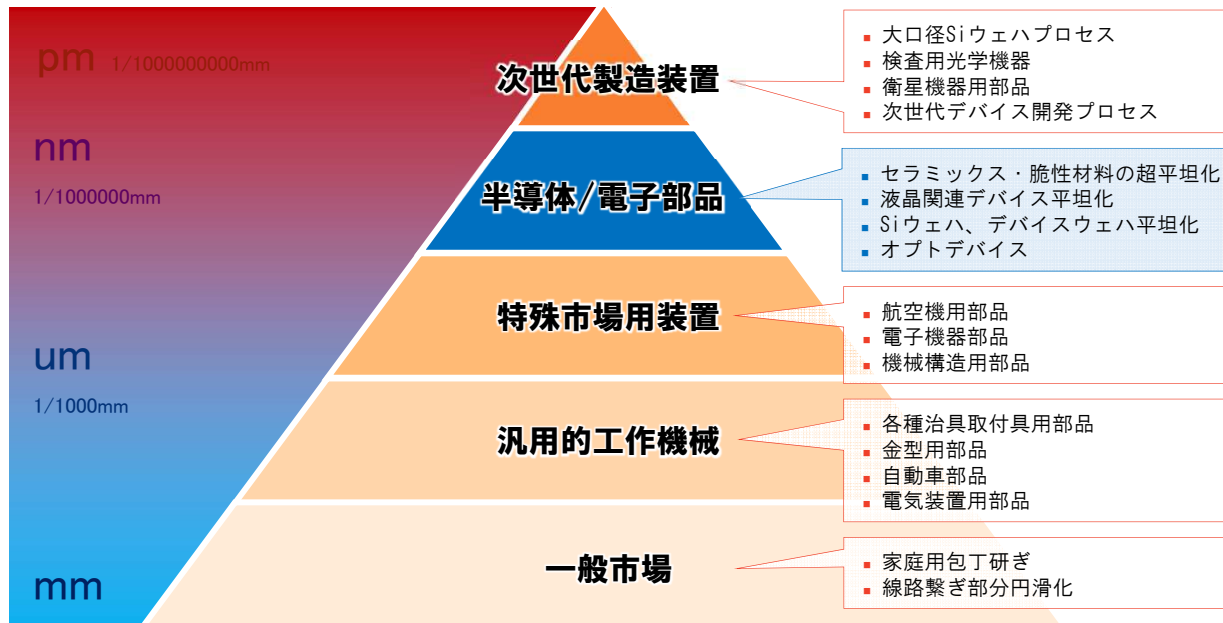
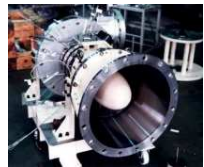
創業者 岡本覚三郎

製品ラインナップ

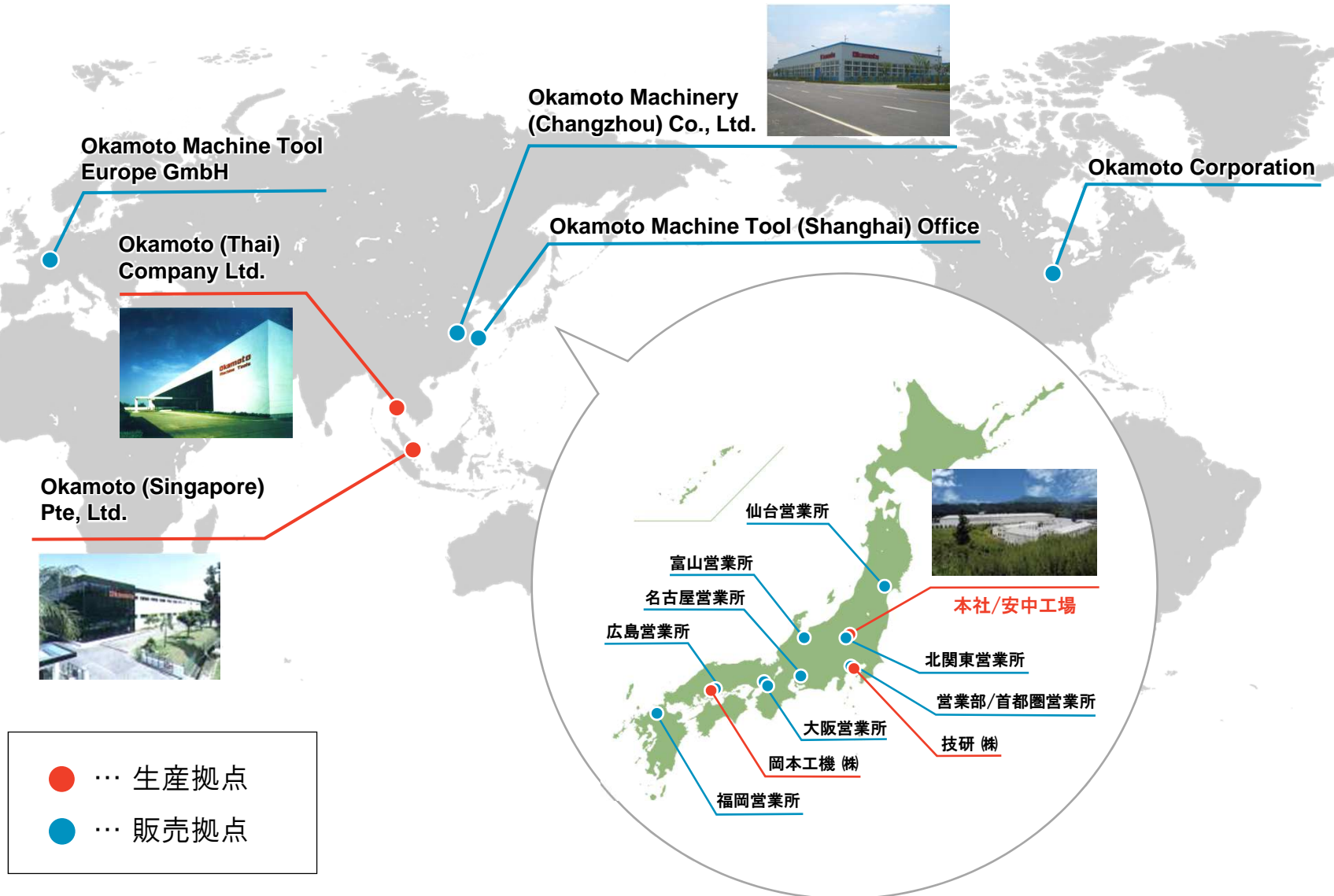
総合砥粒加工装置メーカー



○ あらゆるニーズへの対応～ 豊富な機種構成



○ 国内拠点、海外拠点



○ 研削盤の用途

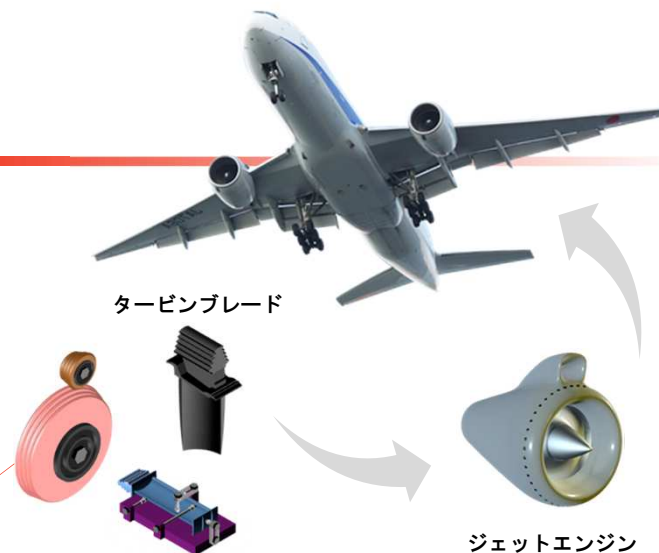


○ 航空機分野・自動車分野での貢献

≫ 航空機用エンジン部品

タービンブレードの取付け部は、高温で生じる熱膨張を抑えるため、その形からクリスマスツリーと呼ばれる噛み合わせ形状になっており、研削加工で仕上げます。
このクリスマスツリーを含むブレード加工用の研削盤で世界有数のシェアを誇っています。

CNCプロファイル研削盤



≫ トランスミッションギヤ加工

自動車のトランスミッションギヤは精密に研削することでギヤノイズを減らし、静粛性を高めるとともに、燃費向上にも貢献します。
この分野に当社歯車研削盤が使用されています。

円筒研削盤



○ 研削盤のシェア ~ 幅広い顧客の広がり ①



1953年生産開始以来60年

- 出荷台数 : 総計50,000台以上
- 出荷国数 : 世界約80カ国
- ユーザー数 : 世界20,000社以上
- 国内推計シェア : 40%

○ 研削盤の機種別分類

700万円

2000万円

5000万円



PSG-CA1 シリーズ
(高能率研削仕様)



スマートフォン
時計・カメラ
ロボット
自動車
他



UPZ-Li シリーズ
(リニアモータ駆動)



液晶テレビ
コンピュータ
時計・カメラ
自動車
他



UGM360NC
複合加工機



自動車
船舶
精密スピンドル
工作機械
他



UPG-NCシリーズ
超精密大型研削盤



航空機
液晶テレビ
測定器
工作機械
他

II

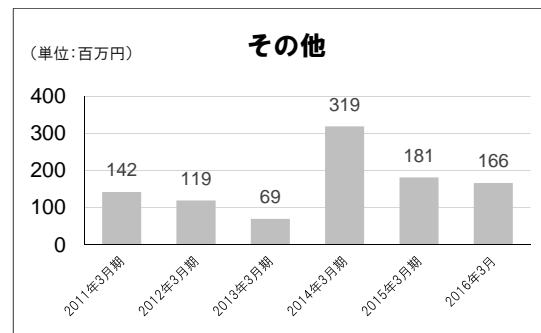
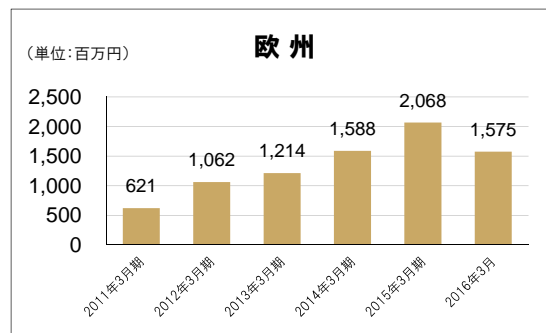
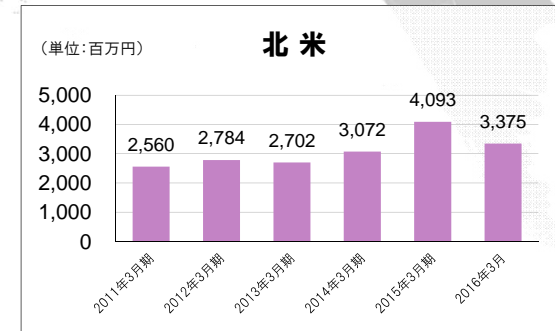
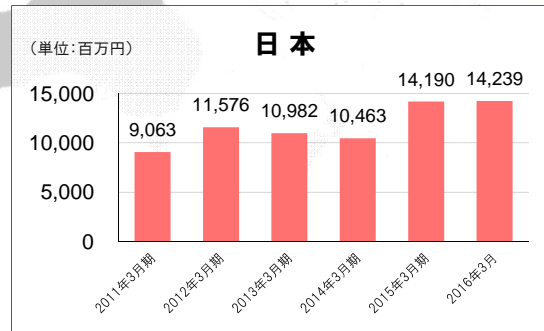
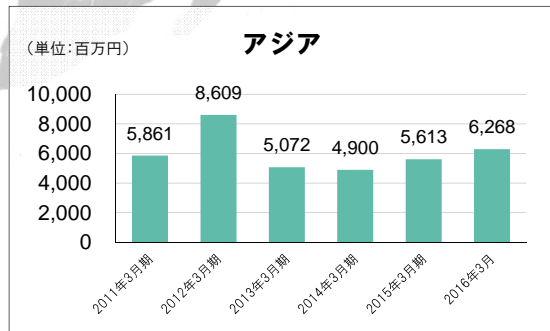
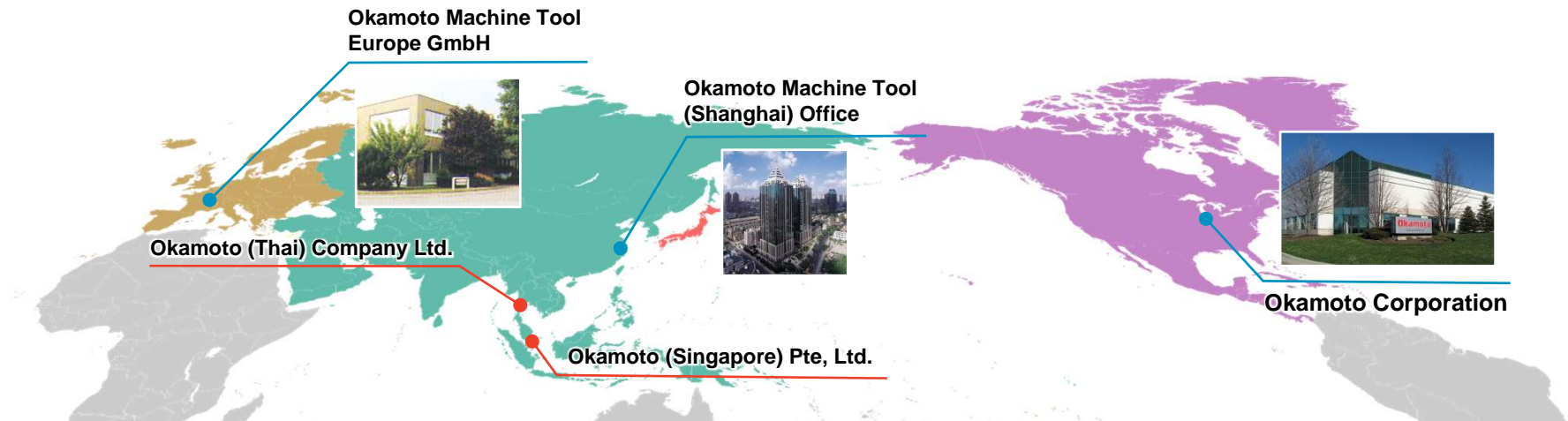
当社の特徴



○ 当社の5つの特徴

- 1 **グローバルな販売網**
- 2 **タイ・シンガポール・アジアでの生産拠点の充実**
- 3 **一貫生産体制**
- 4 **伝統に裏打ちされた高い技術力**
- 5 **豊富な機種構成、幅広い客層、高い顧客対応力**

1 グローバルな販売網



② タイ・シンガポール・アジアでの生産拠点① ～ シンガポール



OKAMOTO(SINGAPORE) PTE, LTD

10 Riverside Road, Singapore 739082, Republic of Singapore

TEL : 65-62696426

FAX : 65-62690832

<http://www.okamoto.com.sg/>



1973年12月	設立
1981年6月	第1次工場増築
1986年3月	第2次工場増築
1991年9月	第3次工場増築
1994年6月	ISO9002取得(アジア地区の工作機械業界初)
2007年2月	ISO14001取得

② タイ・シンガポール・アジアでの生産拠点② ～ タイ



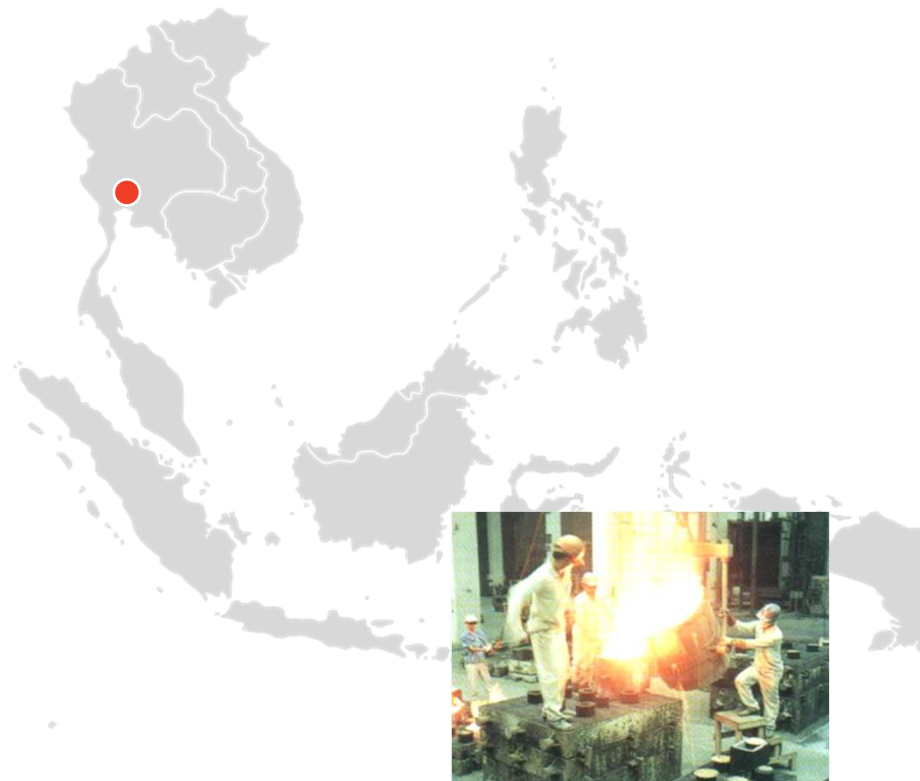
OKAMOTO (THAI) COMPANY LTD.

174 Mu 2, Tambol Chamaeb, Amphur Wangnoi, Ayudthaya 13170, Thailand

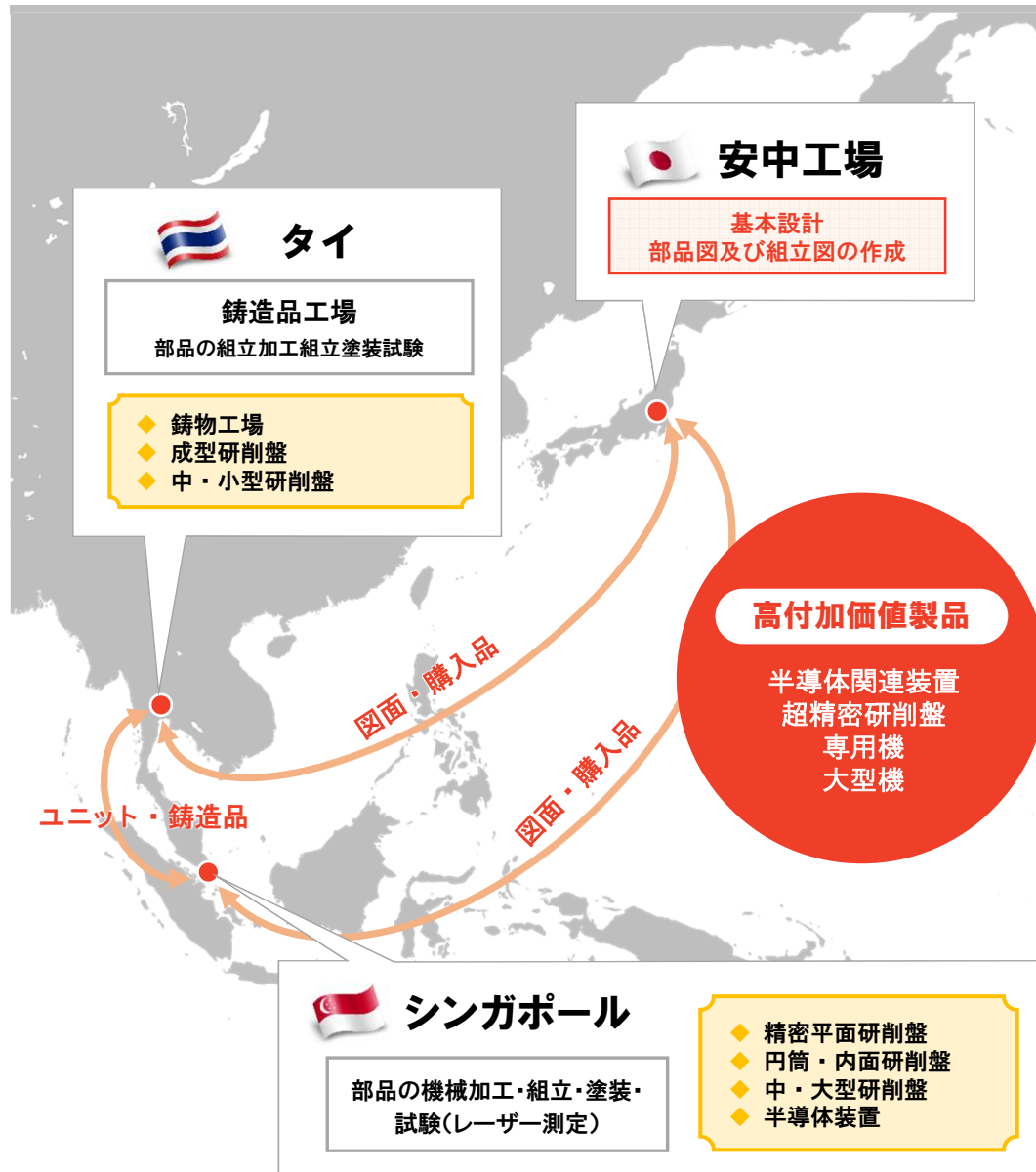
TEL : 66-35-271187 ~ 90 FAX : 66-35-271191

<http://www.okamotothai.com/>

1987年12月	設立
2004年11月	ISO9001取得
2005年2月	ISO14001取得
2005年9月	新組立工場完成
2006年8月	鑄物工場完成
生產品目：鍛造品、鑄物、小型平面研削盤	



3 一貫生産体制



安中工場



基幹工場
 (徹底した温度管理、クリーンルーム)

シンガポール

精密加工機的设计・生産









タイ

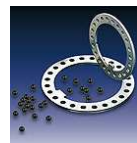
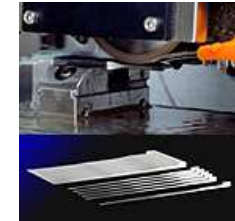
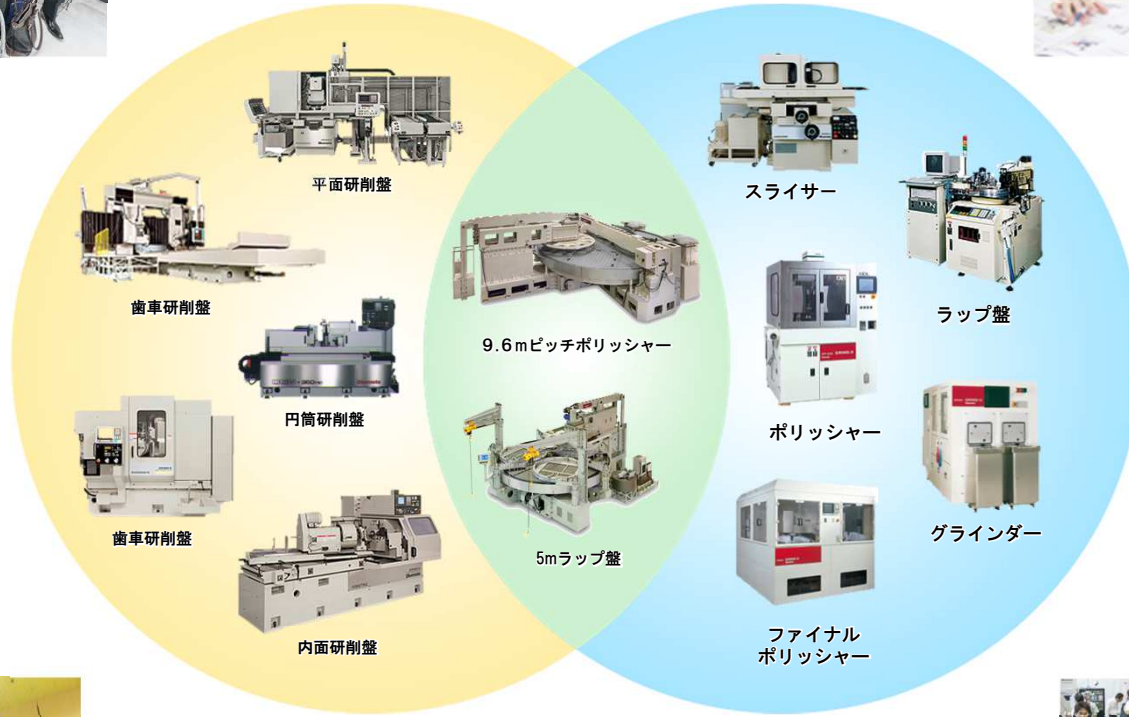
鑄物の生産、一般機の量産



4 伝統に裏打ちされた高い技術力

大正15年（1926年）	岡本覚三郎が岡本専用工作機械製作所を創業	
昭和5年（1930年）	国産初の歯車研削盤 ASG-2型を完成	
昭和10年（1935年）	(株) 岡本工作機械製作所創立	
昭和28年（1953年）	国産初の平面研削盤PSG-6型完成	
		
昭和30年（1955年）	国産初の外周刃スライディングマシン PSG-3GE型を完成	
昭和38年（1963年）	東京証券取引所市場第二部上場	
昭和43年（1968年）	世界初のCNC成形研削盤 NFG-5型を完成	
昭和47年（1972年）	米国に、オカモト・コーポレーション設立	
昭和48年（1973年）	シンガポール工場完成	
昭和57年（1982年）	群馬県安中市に安中工場完成	
昭和61年（1986年）	タイ工場完成	
平成4年（1992年）	ドイツに、オカモト・ヨーロッパ設立	
平成8年（1996年）	半導体事業本部を設立	
平成9年（1997年）	全自動立型高精度平面研削盤の開発で日本機械学会 技術賞受賞 全自動高精度高能率CMP装置の開発で砥粒加工学会 技術賞受賞	
平成12年（2000年）	高精度成形研削盤 UPZシリーズを完成	
平成13年（2001年）	スキャニングポリシヤーGNX300Pを完成	
平成14年（2002年）	中国・上海に駐在員事務所開設	
平成16年（2004年）	超精密平面研削盤 UPGシリーズ発売開始	
平成24年（2012年）	本社を群馬県安中市(安中工場)に移転	

5 豊富な機種構成、幅広い顧客、高い顧客対応力



III

2016年3月期決算概況

○ 2016年3月期の市場環境

【国内市場】

- 自動車業界の設備投資などを受け精密部品加工や機械関連業種向け平面研削盤、小型成形研削盤は販売好調
- 受注は政府の設備投資支援策などの効果で前半は堅調、ものづくり助成金申請の期ずれなどもあり後半は弱含みに

【海外市場】

- 北米は自動車部品、航空機関連を中心に需要堅調、金利引き上げの影響による設備投資見直しなどで後半は停滞
- 欧州は東欧で堅調もロシアの経済制裁の影響を受け低調
- 中国市場は販売拠点増強効果などあり堅調
- アジア市場も堅調に推移

業績ハイライト

(単位:百万円、%)

	2015年3月	2016年3月	
	金額	金額	前期比増減率
売上高	26,149	25,625	-2.0%
売上総利益	7,459	7,457	0.0%
販売費及び一般管理費	6,027	6,230	+3.4%
営業利益	1,431	1,226	-14.3%
経常利益	1,035	971	-6.2%
当期純利益	870	561	-35.5%

※小数点第2位を四捨五入

(単位:百万円)

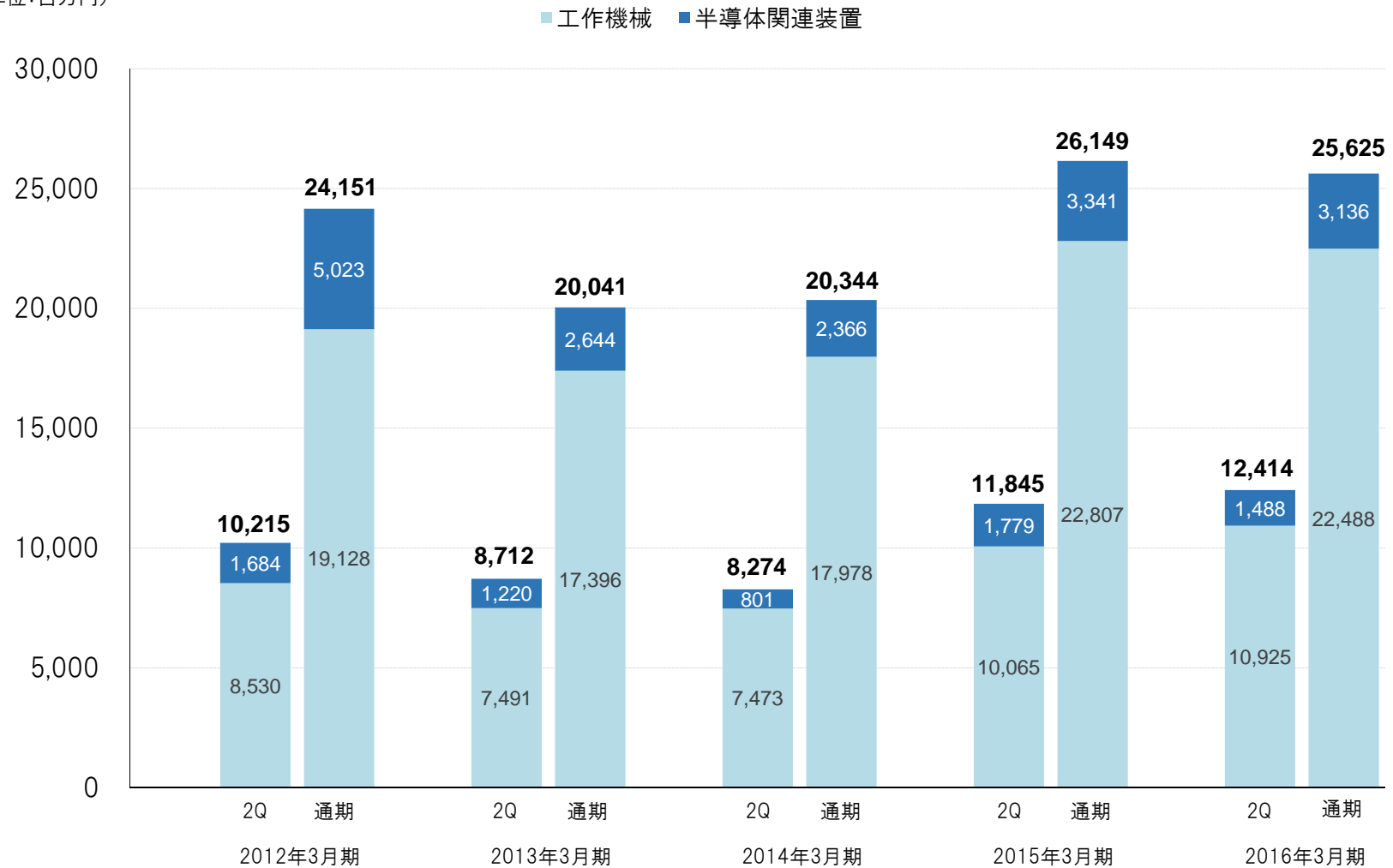
	2015年3月	2016年3月
	金額	金額
設備投資額	1,124	1,705
減価償却費	1,203	1,234
研究開発費	115	62
為替レート	2015年3月	2016年3月
米ドル	110.62	120.16
シンガポールドル	85.5	86.72
ユーロ	138.43	132.53
タイバーツ	3.41	3.42
人民元	17.83	18.84

※期中の平均レートで記載しております。

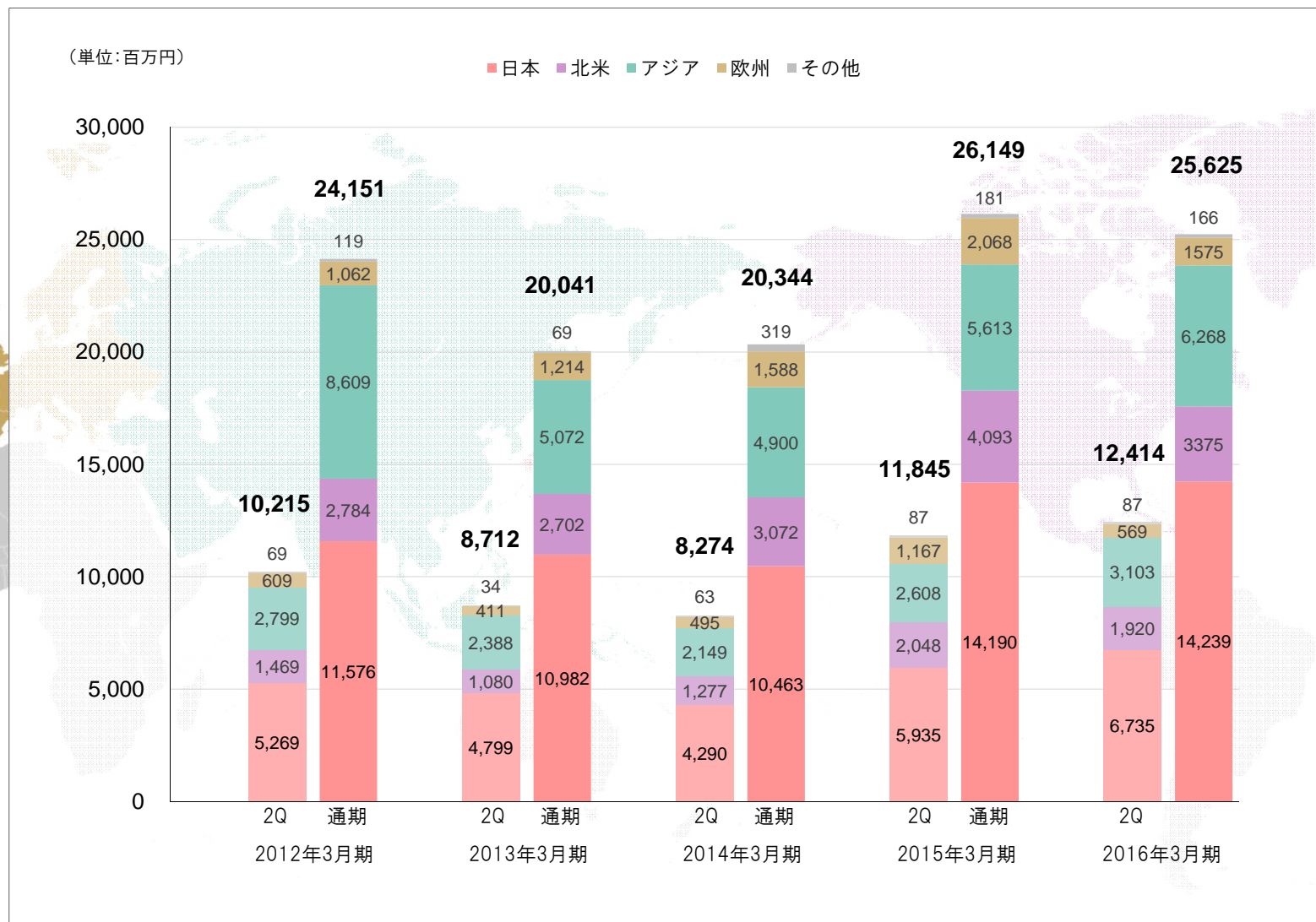
- ものづくり補助金や省エネ補助金など政府の企業支援政策の影響もあり主力の研削盤は好調を維持。工作機械の中で鋳物、歯車については大手ユーザーへの販売が低迷し、売上減少。トータルで前期売上から売上は2ポイントダウン。
- 海外については北米市場が年明け、第四四半期に低迷。欧州もロシアへの経済制裁の影響などで低迷。一方で、中国、アジア市場では善戦。
- 半導体はスマートフォン関連でポリッシュ盤の販売が伸びるなど前期より回復基調。

○ セグメント別売上高推移

(単位:百万円)

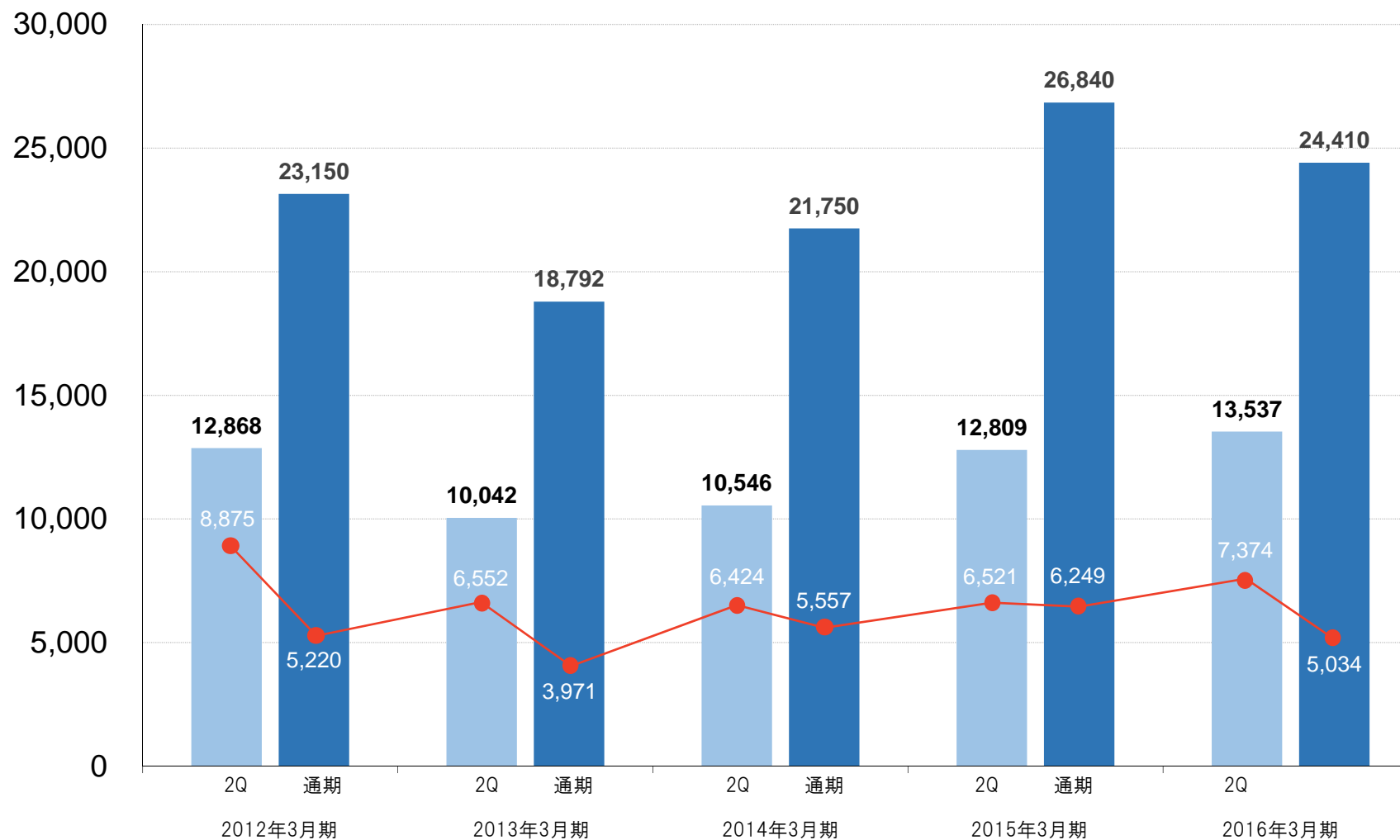


○ エリア別売上高推移



○ 受注・受注残高推移

(単位:百万円)



○ 比較貸借対照表

(単位:百万円)

	2015年3月		2016年3月	
	金額	金額	金額	対前期末比
流動資産	18,296	18,055	▲241	
現金及び預金	2,768	3,961	1,193	
受取手形及び売掛金	7,865	7,304	▲561	
棚卸資産及びその他	7,663	6,790	▲873	
有形・無形固定資産	9,184	9,165	▲19	
投資等	436	437	1	
資産合計	27,917	27,658	▲259	

(単位:百万円)

	2015年3月		2016年3月	
	金額	金額	金額	対前期末比
負債合計	18,499	18,618	119	
流動負債	14,206	14,030	▲176	
固定負債	4,292	4,587	295	
純資産合計	9,418	9,039	▲379	
負債資本合計	27,917	27,658	▲259	

<総資産(前期末費 ▲259m)>

- 流動資産の減少 ▲241m
- ・受取手形・売掛金の減少 ▲561m … 売掛金回収により減少
- ・現預金の増加 +1,193m
- 有形・無形固定資産の減少 ▲19m

<負債(前期末費 プラス119m)>

- 支払手形・買掛金の減少 ▲527m
- 借入金の増加 +757m … (連結)調達/+11,493m ⇔ 返済/▲10,402m
為替の影響により減少額が縮小

<純資産(前期末費 ▲379m)>

- 当期純利益 +561m、為替換算調整勘定 ▲700m
- 配当金の支払い ▲132m → 自己資本比率は32.7%

○ 比較キャッシュフロー計算書

(単位:百万円)

	2015年3月		2016年3月	
	金額		金額	対前期末
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,237		2,064	827
税引前当期純利益	1,040		967	▲73
減価償却費	1,203		1,234	31
売上債権の増減 (▲は増加)	▲1,120		413	1,533
棚卸資産の増減 (▲は増加)	▲221		536	757
仕入債務の増減 (▲は減少)	290		▲431	▲721
その他	44		▲657	▲701
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲741		▲1,437	▲696
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲1,099		784	1,883
換算差額	138		▲139	▲277
現金・同等物残高	2,239		3,510	1,271

■ 現金・同等物は、前期末費+1,271m増の3510m

- 営業CF +2,064m
 - ・税引前当期純利益 +967m
 - ・減価償却費 +1,234m
 - ・売上債権の減少 +413m
 - ・仕入債務の減少 ▼431m
- 投資CF ▼1,437m
 - ・設備投資 ▼1,456m …… 岡本工機が3月新工場取得、各社で減価償却費の範囲内の投資を実施
- 財務CF +784m
 - ・借入金の増加 +1,090m

IV

2017年3月期 業績予想

○ 2017年3月期の市場環境見通し

【国内市場】

- 引き続き自動車業界の設備投資は高水準を見込むほか、政府施策などありロボット関連や航空機、医療器関連の投資は活発
- ものづくり補助金の採択が6月となり、採択待ちの顧客からの受注が止まった状態。採択後に受注は回復を見込むも、2Qまでの売上は減少

【海外市場】

- 北米は金利上昇や大統領選の影響を見極めも基調は堅調。一時的に停滞した受注も回復局面
- 中国は景気減速が鮮明になる中、汎用工作機械の需要は低調も高精度、自動化対応の要求は高く前期比増収を見込む

○ 来期業績予想

(単位:百万円、%)

	2016年3月	2017年3月	
	金額	金額	前期比増減率
売上高	25,625	25,000	-2.4%
売上総利益	7,457	7,500	+0.6%
販売費及び一般管理費	6,230	6,500	+4.3%
営業利益	1,226	1,000	-18.4%
経常利益	971	700	-27.9%
当期純利益	561	400	-28.7%

※小数点第2位を四捨五入

(単位:百万円)

	2016年3月	2017年3月
	金額	金額
設備投資額	1,705	1,626
減価償却費	1,234	1,265
研究開発費	62	94
為替レート	2016年3月	2017年3月
米ドル	120.16	110
シンガポールドル	86.72	80
ユーロ	132.53	124
タイバーツ	3.42	3.18
人民元	18.84	17

※期中の平均レートで記載しております。

IV

中期経営計画

Mission GX2019

○ 弊社を取り巻く環境

国内市場

政府主導の経済政策の継続により各方面の設備投資は堅調

受注、引合とも引き続き堅調に推移
特に当社と関係の深い、航空機、自動車業界からの受注、引合は堅調を維持

海外市場

中国経済減速、中東での政情不安、米国の利上げ等 先行き不透明感



米国

活発な設備投資に少し陰り
市場規模は大きく、高付加価値機に対する需要あり



中国

引合件数に陰りがみられるが、
自動化、高精度化への関心は強い

○ 中期事業計画の骨子 ~ 営業

◎ 営業

施策	工作機械	半 導 体
	工作機械：鋳物	工作機械：歯車
	工作機械	半 導 体
	工作機械：鋳物	工作機械：歯車
	<ul style="list-style-type: none"> ① 海外販売の強化 ② 新規開発機種重点販売 ③ 国内外の販売シェアの拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ① ポリッシュ装置の重点販売 ② 次世代パワー半導体用SiC、GaN、サファイア等の脆性材加工装置の拡販
	<ul style="list-style-type: none"> ① 新規顧客の開拓 	<ul style="list-style-type: none"> ① 拡大するロボット、自動車市場への拡販

その為の具体施策

● 新販売拠点開設による拡販

- (日本市場における高精度・高能率仕様、アプリケーションの成功事例を各拠点を通じ横展開)
- ・米国は北東部に事務所を開設し拡販
 - ・中国は内陸(武漢)、北京、東莞に事務所を開設し拡販

● (戦略機の投入により)競合市場のシェア拡大

- ・国内: 競合各社の市場を確保
- ・米国: 中型・大型研削盤の販売を強化し海外競合他社より市場を奪回

● 製品ラインナップの再構築(機種統廃合)



○ 中期事業計画の骨子 ～ 技術・生産

◎ 技術・生産他

施策

- ① 品質向上
- ② 平準化
- ③ サービス体制の強化
- ④ コストダウン
- ⑤ 効率化

その為の具体施策

- QCD改善活動を通じ変動費を削減する
 - ・初期クレームの撲滅
 - ・資材調達機能強化(グローバル調達含む)
 - ・平準化と生産性向上による内製化の推進
- 規格・モジュール化推進による品質の向上とコストダウン
- 3D CAD化推進による設計効率化と品質の向上
- 集中サービスセンターによるパーツ即納体制を確立
- 歯車生産のライン化、自動化による、品質安定、効率化
- 管理系システム再構築による効率化、品質向上



○ 具体的施策 海外販売の強化

米国と中国を戦略拠点と位置づけ販売を強化

米国

- ◆ 汎用機中心から大型機、高付加価値機の拡販
- ◆ 日本市場に投入している高精度・高能率仕様、アプリケーションの横展開を図る
- ◆ 営業拠点の増設（現在4拠点→中期計画期間中に北東部に拠点創設→5拠点体制へ）

中国

- ◆ 小型成形研削盤の拡販を継続しつつ、大型機、高付加価値も拡販
- ◆ 日本市場に投入している高精度・高能率仕様、アプリケーションの横展開（人件費高騰、産業の高度化により高効率、省力化の要求あり）
- ◆ 営業拠点の増設（現在4拠点→中期計画期間中に内陸（武漢）、北京、東莞に拠点創設→6～7拠点体制へ）

○ 具体的施策 戦略機種への投入

戦略機種を開発し、海外市場へ投入する

▶▶ 複合研削盤(円筒研削盤ベース)

ヨーロッパ競合が成功している「円筒研削盤の複合機」の機能・性能を取り入れて、市場拡販を押し進める。

国内競合メーカーが価格・機能で市場ニーズを満たしていないので、ヨーロッパ市場で磨きを掛けて逆輸入拡販を図る。



▶▶ サドル型、コラム型中型平面研削盤の新シリーズ

ロングセラー商品であるサドル型中型平面研削盤のモデルチェンジを通じて競争力を強化する



▶▶ 大型平面研削盤のコストダウン機

国内でベストセラーシリーズに成長した高剛性大型平面研削盤の生産を海外に移管し、コストダウンを通じて競争力を強化し拡販につなげる



機種統廃合による製品ラインナップの再構築にも注力

○ 具体的施策 岡本工機 高精度歯車生産の主力拠点

Okamoto
岡本工機株式会社



- | | |
|-------|---|
| 1926年 | 岡本覚三郎が、岡本専用工作機械製作所 を創業 |
| 1935年 | (株)岡本工作機械製作所、と組織及び社名を変更 |
| 1944年 | (株)岡本工作機械製作所 松永工場、を設立。平歯車、傘歯車の生産と歯切盤の製造を開始 |
| 1960年 | 傘歯車の生産工場落成 |
| 1973年 | 販売体制強化のため歯車製造部門を、(株)岡本工作機械製作所より分離
岡本歯車(株)を設立 |
| 1975年 | 工作機械製造部門を、(株)岡本工作機械製作所より分離
岡本工機(株)を設立し広島県尾道市長者原に移転 |
| 1986年 | 岡本歯車(株)と岡本工機(株)が合併し、岡本工機(株)となる
本社を広島県福山市金江町に移転
資本金 1億6,700万円となる |
| 1989年 | 本社工場増築 歯車部門倍増となる |
| 1992年 | 尾道工場増築 |
| 1993年 | 資本金 3億2,200万円に増資 |
| 1994年 | 本社工場 NC傘歯車歯切盤120台増設 |
| 1995年 | 尾道工場 歯車部門増設 |
| 1997年 | ガス浸炭窒化炉(スベリア式バッチ型)2基新設 |
| 1998年 | 松永工場 ギヤブランク生産体制強化 |
| 2000年 | 尾道工場 刈払機ASSY体制強化 |
| 2003年 | JIS Q9001:2000(ISO9001:2000)取得 |
| 2004年 | 岡本工機(常州)有限公司 を設立 |
| 2013年 | 岡本工機(常州)工作機械の輸入販売開始(岡本工作機械製品) |



社 名 岡本工機株式会社

代表者 代表取締役社長 菊地 正人

設 立 1975年5月

資本金 3億2,200万円

従業員 220名

○ 具体的施策 岡本工機 新工場・用地建物取得

背景

自動車業界の新車・新技術開発に係る設備投資の活況
政府のロボット産業に対する手厚い振興策の継続

「高精度歯車」への受注・引合 高水準

北川精機より広島・府中工場の工場用地・建物を取得

(土地面積 211,175平米、建物面積 7,435平米、取得金額 6億7000万円)



府中工場（現状）



Okamoto
岡本工機株式会社

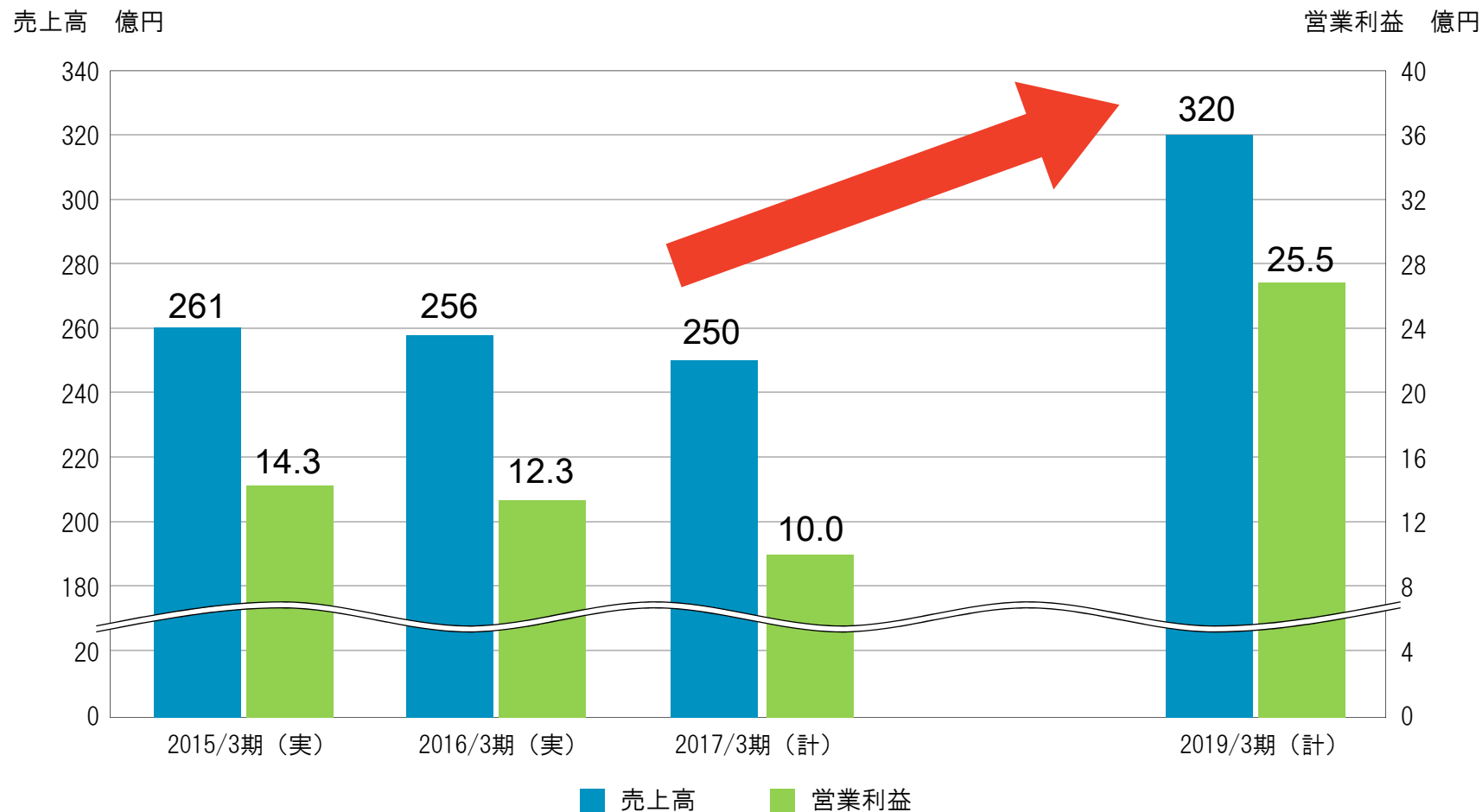


各種歯車の生産能力を50%向上

(設備投資金額 11億2000万円、2017年3月より本格稼働を予定)

3年後売上高を現状40億円から60億円に引き上げを期す

○ 中期目標

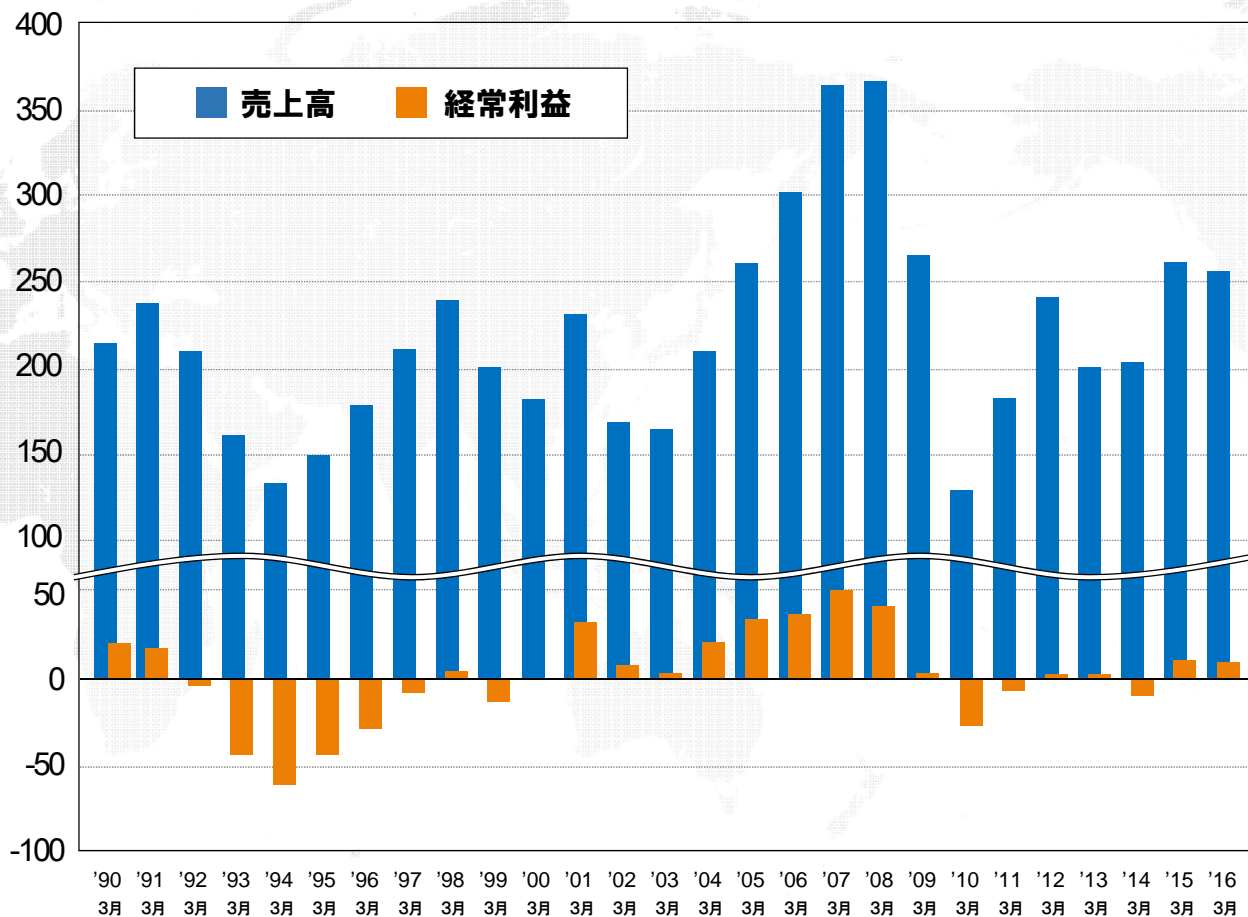


営業利益率目標 8%

海外売上高比率 60%

○ 中長期業績推移

(億円) 1990年以降の売上高・経常利益推移



	売上高 (億円)	経常利益 (億円)
1990年3月	214.51	19.82
1990年3月	214.51	19.82
1991年3月	237.92	17.13
1992年3月	209.95	-4.02
1993年3月	161.47	-43.11
1994年3月	133.57	-59.55
1995年3月	149.65	-42.98
1996年3月	178.92	-27.94
1997年3月	211.16	-7.46
1998年3月	239.58	4.29
1999年3月	200.6	-13.21
2000年3月	182.09	-0.87
2001年3月	231.15	32.05
2002年3月	168.7	7.92
2003年3月	164.42	2.95
2004年3月	209.89	20.82
2005年3月	261	34.02
2006年3月	301.69	36.04
2007年3月	364.2	49.76
2008年3月	366.32	40.82
2009年3月	265.92	3.39
2010年3月	129.34	-26.42
2011年3月	182.48	-6.7
2012年3月	241.51	2.71
2013年3月	200.41	2.35
2014年3月	203.44	-9.25
2015年3月	261.49	10.35
2016年3月	256.3	9.71

究極の
平面創成



Okamoto

本日はありがとうございました。

本資料に関するお問い合わせ先

株式会社 岡本工作機械製作所
総務部
TEL 027(385)5800

【本資料お取扱い上のご注意】

本資料は、株式会社岡本工作機械製作所(以下、当社)をご理解いただくため、当社が作成したもので、当社への投資活動勧誘を目的としておりません。

本資料を作成するにあたっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予測ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果があります。